

緑地新聞

6

2019年2月発行

匠の技は時を越えて



首都大で竹を切ろう！ ～近隣の中学生4名参加～

実際に竹を伐採してみると皆、簡単に竹を倒していました。大学生がサポートしながらの作業でしたが、要領を掴むのが早く、ノコギリの扱いも、とても上手でした。

休憩時間には、「学校の授業では何の科目が好きなのか」「サンタさんはやってくるのか」等の話をしました。その後、再び作業に戻り、各々一本以上の竹を切りました。最終的には、なんと、竹を五本も切った子がいました。緑地には以前と比べ、日の光がたくさん入るようになりました。竹林が拡大した影響で、枯れかけていた緑地の木々にとつて、中学生たちはきつと救世主でしょう。

お昼には、みんなでテーブルを囲んで昼食を食べました。談笑したり、「幸運の一〇ペコちゃん」を探したりして、楽しい時間を過ごしました。

午後は、「切った竹の活用方法」を中学生のみんなに考えてもらいました。中学生の発想は面白く、私たち大学生には思いつかなかったものを作りました。ネームプレートと楽器のギロです。ネームプレートの名前をハンゲル文字で書くという子もいました。ギロは、音がすごく良く再現されていました。大学生も自由にすだれや椅子等を作りました。自分達で考えながら、竹で何かを作るといふ時間は純粋に楽しかったです。



↑ 仕事をサポートする大学生メンバー

十二月十六日(日)、里山保全ボランティアの体験会を行いました！目的は環境保全活動の意義について、プログラム外部の人に考えてもらうきっかけを作るということです。中学生と大学生という普段、なかなか交流のない組み合わせで、最初は互いに距離感が分からず少し緊張気味でしたが、活動が始まると、だんだんと打ち解けていきました。

最初に行ったのは、竹の伐採作業です。竹を切る前には、大学生が里山保全活動の意義や背景、その方法について説明をしました。デモンストレーションで竹が倒されるのを目にした中学生たちは、少し怖がり、不安そうにしていますが、

松木日向緑地プログラムとは？

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年、九月から、月に一度程度、下記の社会課題の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。

また、伐採した竹を活用して、近隣地域の方々との交流等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティアの意義・社会の課題や背景を学ぶ事前学習・活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である、竹林整備と連動した内容・構成になっています。

社会的課題

- 環境: 里山 荒廃による生態系への悪影響
- 文化: 自然利用の技術・文化の伝承断絶
- 地域: 少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティーの希薄化
- 大学: 豊かな緑地資源への認知度の低さ

参加学生に質問してみた。

Q. プログラムに参加した理由は？

- A. 元々、ボランティア活動に興味があり、かつ、自分の専攻分野に松木日向緑地の活動が密接に関連していたから。
1年・観光・F
- A. 自然が好きで活動にとっても興味があったから。活動を通じて大学や地域のことをもっと知っていききたい。
1年・インダストリアート・M
- A. 図工の時間が昔から好きで、活動の中で色々な道具を扱えるのではないかと思ったから。また、キャンプなどに行くことが多く、自然と触れ合うことに親しみがあり、その中で子どもたちと関われるこの活動に魅力を感じたから。
1年・人文社会・N
- A. 大学内の美しい自然の中に入りたいと以前から考えていた。来年からは学部の関係で荒川キャンパスに移ってしまうので、今年度の活動を通じて、南大沢キャンパスを楽しみ尽くしたい。
1年・作業療法・M

緑地川柳

竹の音と

共に感じる

日向色



執筆後記 観光・一年生
今回の活動を通して、私たち大学生がいい刺激をもらいました。今回参加してくれた中学生の皆さんに、少しでも楽しいと感じてもらえたのなら、とても嬉しいです！

編集後記 法学・三年生 N
勉強や発表で荒んでいた自分の心が中学生たちの笑顔で洗われるのを感じました。竹で楽器を作るといふアイデアは今後の参考にしていきたいです。

編集発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二一六七七・二三五四 メール tnu-volunteer@jnu.tnu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー